

キャラクター名  
大墓 依里 (おおはか いら)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ノイマン	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	引きこもりゲーマー
オプション	オルクス	年齢	25	性別	女
覚醒	生誕	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	天涯孤独	経験	喪失	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	1	0			2	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	4	0	1			5	戦闘移動	14
社会	1	0	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	5r+11		20		
	白兵	5r+11		32		
	白兵	5r+31		12		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品: メガネ	
コネ: 手配師	
コネ: 要人・噂・UGN・情報屋	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
	P	N		
支部のみんな	P 連帯感	N 不安		
鎖永居 榎実: エージェント	P 憧憬	N 憐憫		
榎楼 翔: エージェント (ジャーム済み)	P 好意	N 恐怖		
橋川 龍崎: 元支部長 (ジャーム済み)	P 尊敬	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
バックスタブ	4		常時	至近	自身	自動	リミ	
効果:	攻撃力+「Lv*5」 侵蝕LV上昇無し							
赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	LV*2-HP 武器作成 白兵・攻撃力+「-HP+8」							
コンセ:ブラム	2	2	メジャー					
効果:	@8							
渴きの主	3	4	メジャー	至近	単体	対決		
効果:	装甲無視 HPLV*4回復							
コントロールソート	1	2	メジャー	武器		対決		
効果:	白兵 精神判定変更							
現実改変	1	6	オート	視界	単体	自動	120	
効果:	達成値+20か-20 HP-20							
縮地	4	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	何処でも瞬間移動							
ブラッディーリング	1							
効果:	血を摂取							
テレキネシス	1							
効果:	手を触れずにあやつる							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

K市支部長。赤ん坊のころからのUGNチルドレンで、かなりの実力者。小学校の時から動いていたため、侵蝕がちよいと高め。基本出てこないが、強制的に連れてこられるタイプだったら行ける。外には絶対といっていいくらい出ようとする。エージェント時代はCN:終焉の赤眼『デッドアイズ』だった。彼女の視界に入ったらその敵は終わりだと。

生まれたときに親がUGNに置き去りにした。そのまま親からももらった名前だけを知って生きた。親の顔や名前は知らない。赤ん坊のころから体にあつた力はずくに制御できるようになり、小学生で前線に立ちFHエージェントと戦えるぐらいの実力を持っていた。そのまま順調に育ち、幸せな時間を過ごした。

ある日、FHセルリダーの居場所を突き止め、殺気に駆られた依里は無謀にも応援が来るまで一人で戦った。だが、その相手はFHセルリダーではなかった。ただの、神のRBだった。情報を書き換えられて違う相手を敵に回してしまった。依里はそのRB相手に瀕死。意識を失い、そこに駆け付けられた同僚であり幼馴染のギルデに救われた。命は助かったが、助けに来たギルデがジャーム化した。多分、ギルデは戦ってしまったんだろう。ここから依里の幸せが崩れ始めた。

その後、依里の相手をしたRBはFHセルリダーではないと言われ、後悔した。依里の間違った行動により、大事な幼馴染をジャーム化させてしまった。依里はその処理依頼を受けたくなくなって、生きている彼に会いたくなくて、引きこもるようになった。

その後、他の支部で働いていた榎実が兄をなくして置物のようになっていた。それを聞くころには何とか落ち着いて、励ます側になった。「・・・依里も大事な同僚を失った。痛いほどその喪失感はあるんだ。榎実、楊木にいさんはきっと笑って生きてほしいと思ってるんじゃないかな？」